

令和3年度 能美市立粟生小学校 学校評価

重点目標 (めざす姿)	具体的方策	主担当	【評価指標】 ＜成果指標＞＜努力指標＞ ＜満足度指標＞	【評価の根拠】 達成度判断基準	取組状況 (中間評価)	評価	今後に向けて	取組状況 (最終評価)	評価	来年度に向けて
1 組織的な学校運営	【安心・安全な学校づくり】 全職員協力のもといじめ等の未然防止と早期発見、組織的な対応に努める。	教頭	＜努力指標＞ 問題行動等に組織的に対応するシステムを機能化させ、教職員の意識の向上・維持を図る。	情報共有を組織別に広げることができた。 (教師アンケート) A:100% B:90%	教師アンケート 児童の見取りと情報共有を通して、概ね組織的に取り組むことができていた。 A:76% B:100%	B	校内研修(OJTを含む)を通して、教師の児童を見取る力の育成を図る。	校内OJT、OUアンケート分析等の具体を通して、教師の見取り力を高めることができた。 A:78% B:100%	A	「いじめ等問題行動の積極的な認知と早期対応・早期解決に向けた校内研修を積み重ね、児童の居場所づくり、絆づくり」に努める。 ・実践と検証に基づく学力向上ロードマップの策定と見直しを行うとともに、常に検証・改善が機能するようなシステムを構築する。 ・定時退校日の設定に加え、それぞれが目的と見直しを持って校務に取り組みよう。学力向上ロードマップの活用方法を全体で共有する。 ・クロムブックの効果的な活用に加え、校務支援システムを活用することで、さらなる公務の効率化を図ることで、組織としての機能性を向上させる。
	【組織づくり、取組の連携】 学力向上ロードマップを用いて目標を共有し、PDCAサイクルを実施させる。	各主任	＜成果指標＞ 定期的に主任会議を開催し、学力向上ロードマップをもとに取組状況の確認、検証・改善の協議、共通行動の確かな実践に取り組む。	実践していた (教師アンケート) A:役割を果たせた(100%) B:概ね役割を果たせた(95%)	教師アンケート 学力向上ロードマップをもとに、目的意識をもって自分の役割を果たせたことができた。 A:47% B:100%	B	主任会を中心に、学力向上ロードマップの加除修正を積み重ねることで、教師一人一人の役割意識・目的意識の醸成について不十分であった。 A:39% B:100%	学力向上ロードマップに基づいた教師一人一人の役割意識・目的意識の醸成については不十分であった。 A:39% B:100%	B	
	【働き方改革】 各教職員の専門性を生かし、適切な時間管理を行いチーム学校として最善を尽くす。	教頭	＜努力指標＞ ・月2回の定時退校日に加え、各自が自主的な定時退校日を計画的に同等目標達成のための工夫をする。 ・学力向上ロードマップをもとに、役割分担を明確にすることで、業務の標準化を図る。 ・公務にクロムブックを活用し、効率化と多忙化改善につなげる。	勤務時間の短縮に心がけた (教師アンケート) A:十分心がけた(100%) A:十分効率化につなげられた(100%) B:心がけた(90%) B:効率化につなげられた(90%)	教師アンケート 勤務時間の短縮に向けた取組については課題が見られる。 ・クロムブックを活用することで、公務の効率化に心がけたことができた。 A:41% B:88%	C	・行事予定表に各自の定時退校日を位置付けて、計画的な公務の遂行と定時退校の徹底につなげる。 ・クロムブックを活用することで、公務の効率化に心がけたが、効果的に設定できていない。	・月2回の定時退校日に加え、各自の定時退校日を位置付けたことで、計画的な公務の遂行には課題が残った。 A:28% B:93%	C	
2 知(学校大好き)	【授業改善】 児童が主体的に考え表現しようとするためにICTを効果的に活用した授業を行う	研究	＜努力指標＞ ・児童・職員が、週時数の2割以上の学習活動においてchromebookを使用している。 ・授業の様々な場面でICTを活用することで、個別最適化した指導を実践し、資質・能力の育成につなげる。	実践していた (教師アンケート・週査) A:十分できた(90%以上) B:できた(80%以上)	週の使用率20% ・意識的に使うようになり、児童も積極的にお使い方を習得し、スムーズに活用している。 ・資質・能力の育成77% A:24% B:53%	C	・1学期はChromebookになれることに意識が言っていたので、2学期はChromebookを使用するとき、目的をもって使っているが、教師が意識していない。	・週の使用率18.3% ・児童にどのような力をつけるか意識して授業研究でもChromebookを活用していた。使用する場面も精選できているように感じている。中・高学年の学習活動においての使用率は30.4%。	B	・学期末のみっ子テストは年間を通して95%以上の児童が達成でき、児童の中でも学期末にはのみっ子テストに合格できるように頑張ろう、という意識が根付いてきたので来年度も引き続き取り組んでいく。
	【基礎基本の定着】 計画的に基礎基本の定着を図る。	教務	＜成果指標＞ 学力向上プランにのっとり、計画的に実践し、定着を図る。	学期末テスト(漢・計) (目標達成率) A:95%以上 B:85%以上	・学期末漢字テスト:95% ・学期末計算テスト:95%	A	・引き続き、級外やOSの支援体制を充実させ、基礎基本の定着を図っていく。	・学期末漢字テスト:97% ・学期末計算テスト:97%	A	
	【語彙力の向上】 学校及び家庭での読書活動の推進を通して語彙力の向上を図る。	学習指導	＜成果指標＞ さまざまな読書活動の取組を通して、児童に目標の週1回図書室へ行くことを達成させる。	目標達成率 (集計結果) A:95%以上達成 B:80%以上達成	1学期達成率82% ・主に、授業中に学級ごとの利用であったため、個人の利用が難しいとされている。	B	・長休み、昼休みも開館したり、読書月間のイベントを用意したりして、本の貸し出しがしやすいようにしていく。	・2学期達成率71% ・休み時間の開館やイベントを企画・運営し、本の貸し出しを促したことが、個人差がみられた。	C	
3 徳(友達大好き)	【安心・安全な学校作り】 道徳の時間では「A善悪の判断、自律」「B親切、思いやり」「C相互理解、寛容(高学年)」の価値項目に重点を置く。	道徳推進	＜成果指標＞ 各学期に1つ、重点価値項目を設定し、他者の考えに触れる場をもつ授業を行う。	他者の考えに触れた (実施状況) A:できた(100%) B:十分できた(半数以上)	道徳チェック表より	A	・2学期は重点項目の道徳の様子や児童の道徳ノートなどを職員で交流していく。	道徳チェック表より ・児童が他者の考えにふれられるように意識した授業を行っているが、さらなる交流を深めていくことができた。	A	・生徒指導の3機能を授業に生かす自己点検カードや「重点項目の強化月間」の取り組みによって、教員自身の意識が高まり、児童への意図的な働きかけが多く取り組まれた。来年度も、引き続き取り組み、児童の自己有用感や共感的人間関係を育てていきたい。
	【自治・自主の精神の育成】 特別活動を通して、自分の思いを伝え合い、他者を理解しようとする心情を育てる。	生徒指導	＜成果指標＞ 学級活動などの発信する場を通じ、伝えること、聴くことの大切さを育むことのできる指導を行う。	大切だと思っているか (児童アンケート) A:90%以上 B:80%以上	児童アンケート 他者へわかりやすく伝えることや他者の表現を聴き取ることの大切さを概ね理解している。 A:88% B:92%	A	教師が意図的に発問したり問い返したりすることで、伝える目的意識や相手意識を明確に持つようになっている。	児童アンケート 他者へわかりやすく伝えることや他者の表現を聴き取ることの大切さを概ね理解している。 A:87% B:96%	A	
	【自己肯定感の高まり】 学校生活で、児童の活動に対して価値づけをすることで自己肯定感を高める。	生徒指導	＜成果指標＞ 具体的場面を見つけて、「粘り強さ」「協力性」「自主性」の価値づけをする。(ほめる、認める、気付けさせる)	学級、学校が楽しい (児童アンケート) A:90%以上 B:80%以上	児童アンケート 多くの児童が、学級、学校が楽しい(まあまあ楽しい)と感じている。 A:80% B:89%	B	OUアンケートの結果等を活用し、授業の中で個に応じた指導・支援を意図的に行うことで、児童の自己肯定感をさらに高めている。	児童アンケート 多くの児童が、学級、学校が楽しい(まあまあ楽しい)と感じている。 A:88% B:91%	A	
4 体(自分に挑戦)	【基本的な生活習慣の確立】 よりよい基本的な生活習慣を確立するために必要な知識を身につける。	保健体育	＜成果指標＞ 基本的な生活習慣とメディアに関する指導を行い、よりよい生活習慣の確立に必要なことを理解している。	めあてを守れた (児童アンケート) A:90%以上 B:80%以上	児童アンケート メディアの利用については各家庭でのままを守ることができている。 A:68% B:90%	B	基本的な生活習慣のより深い理解をねらった生活の授業を行うことでメディアの上の手付け合いの理解を深めている。	長期休み前に自律神経及び睡眠と生活習慣の関係についての授業を行ったことで概ね理解できている。同じ内容でも定期的に授業等で児童に際しては身に付けていく。	B	・学習に集中して向かったり楽しく学校生活を送ったりするために、心身の健康は必要不可欠であるため、同じ内容でも定期的に授業等で児童に際しては身に付けていく。
	【安全意識の向上】 交通安全・生活安全・災害安全の取組を高め、子ども自身の安全意識を高める。	保健体育	＜成果指標＞ 登下校の安全や休み時間の遊び方、廊下歩行、避難訓練等の指導を行い、安全について理解している。	めあてが達成できた (児童アンケート) A:90%以上 B:80%以上	児童アンケート 生活の中の危険な場面を理解し、どう行動するかについては概ね理解できている。 A:79% B:98%	B	理解していることと行動することにはまだずれがあるため、安全な行動を意識させるために廊下歩行など、児童会とも連携して取り組んでいく。	廊下歩行については児童が工夫してポスターや放送呼びかけなどによって概ね意識することができた。 A:77%	B	・避難訓練の際には自身の身の守り方の指導を身に付け、日々の生活の中で安全については委員会等が呼びかけを継続することで児童同士で聲を上げていく。
	【体力向上】 体育授業を通して、継続的な体力の向上を図る。	保健体育	＜成果指標＞ 体育の授業で3分間縄跳びに取り組み、20mシャトルランの記録を伸ばすことができる。	めあてが達成できた (児童アンケート) A:90%以上 B:80%以上	児童アンケート 体育の授業には縄跳びの持参し、3分間をわたりに進んで取り組みることができた。 A:90% B:89%	B	継続して行い、2学期末に再度20mシャトルランの記録を取。力カテストの記録と比較し、今後の課題を検討する。	縄跳び月間を中心に継続的に持久力高める運動に取り組むことで20mシャトルランの記録は学期末には上がった。 A:52% B:81%	B	・今後も年間通して体育の時間の3分間縄跳びを持久力の向上に取り組んでいく。
5 家庭・地域との連携	【コミュニティ・スクールの充実】 連携を密にし、活動のより一層の充実を図る。	教頭	＜成果指標＞ 学校運営協議会を計画的に開催すると共に、CSデレクターとの連携を深めることで、学校支援の充実を図る。	学校支援の様子 (実施状況) A:計画的に行われた B:ほぼ計画的に行われた	感防防上の制約の中、6・7月の学習支援を要請したが、5月は実施できなかった。 緊急回学校運営協議会は中止	B	学習支援内容の見直しを随時行うことで、適時に・適切な支援を要請し、学習の成果につなげることができた。	・中・高学年を中心に、各教科・領域の学習に積極的に支援を要請し、学習の成果につなげることができた。	B	・感染症対策の状況を踏まえながら、積極的に学習支援を要請していただくこと、CSとの連携をさらに深めていく。 ・CSとの協力を得ながら、学校サポーターの拡充を図る。 ・寺井地区の学校間の連携を視野に、児童会主体の自律的な取組を展開させることで、児童主体のルール作りやその見直しなどの取組につなげる。 ・地域の文化や環境を生かした学習活動をさらに推進するため、地域を素材とした校内研修の充実を図る。(CS・保護者との連携を含む)
	【保護者連携】 保護者と児童の課題を共有し、よりよい家庭生活習慣の確立に努める。	教頭	＜成果指標＞ 保護者が、家庭学習の目標時間や各家庭でのメディアのルールを守るように働きかけている。	働きかけた (保護者アンケート) A:90% B:80%	保護者アンケート 各家庭でメディア利用に関するルールを決め守っている。 A:41% B:83%	B	家庭学習がはじり週間の取組に加え、児童会主体の活動を促し、自律的な取組としていく。	メディア利用に関する課題意識を共有することはできたが、望ましい生活習慣の構築には課題が残る。 A:42% B:85%	B	
	【ふるさと教育の充実】 地域の自然や人材を生かしたふるさと教育を推進する。	教頭	＜満足度指標＞ ふるさと能美市の良さに気づき、地域に貢献しようとしている。	地域貢献に取り組めた (児童アンケート) A:90% B:80%	児童アンケート 教科・領域の学習活動を通して、能美市の良さをおおむね理解している。 A:49% B:89%	B	学習支援内容の見直しを随時行うことで、教科・領域の学習に地域の自然や人材を生かす学習活動積極的に取り入れられるようにする。	・中・高学年を中心に、地域を生かした学習活動を意図的に位置づけることができた。 A:42% B:83%	B	

中間評価を受けて
・教職員の働き方改革については、業務の見直し・効率化に加え、各種人材の効果的な活用を視野に改善を図っていく必要がある。(クロムブックを活用した学習における支援等)
・下校時や自転車使用時の児童の交通ルール・マナーについての問題が明らかとなった。学級・学年指導に加え、児童会・地区別子供会指導を繰り返すことが重要である。
・コロナ禍の中でも、学校と地域・保護者が共に学びあえる機会を意図的に増やしていくことが重要である。(学校からの積極的な発信が重要)

最終評価を受けて
・業務の効率化等については課題が残った。ICTの効果的な活用に加え、業務の時系列化と関連性の明確化を進めることで、目的意識を一にした組織的かつ協働的な学校運営につなげられるようにしていく。
・OUアンケート結果の分析に基づいた取り組みに加え、日々の授業理解や指導改善に基づく個別に適切な対応が自己肯定感の向上につながったと考えられる。今後、丁寧な専門性向上指導等による一貫性のある指導の卒業に努めていく。